

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	調律理論 I	授業形態 / 必・選	講義	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	9回(18単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	ピアノ調律コース、ピアノ／管楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験 9年 楽器店に勤務後、フリーランスの調律師として活動中。			
授業概要				
音についての理解を深め、基本となる調律の方法を覚える。				
到達目標				
アップライトピアノを構成する部品の名称を覚え、それぞれの役割と働きを理解し、修得する。				

授業計画・内容	
【前期】 1回目	調律について ・調律の定義 ・調律工具の使用 方法 ・調律時の基本的な姿勢の取り方
【前期】 2回目	調律について ・打鍵の方法 ・チューニングハンマーの操作 方法 ・0点を確認するためのハンマー操作と うなりの聞き方
【前期】 3回目	アップライトピアノの部品とその働き
【後期】 1回目	音響物理学 音の定義、音の発生、音波、音の種 類(音の分類、楽音の四要素)、倍音、 音の性質(唸り、共鳴)について
【後期】 2回目	音響物理学 理想弦の条件、弦振動、弦振動の性 質、打弦点と倍音、ハンマーの硬さ と倍音について
【後期】 3回目	音響物理学 音程の定義、音程の種類、音程比、 共通倍音
【後期】 4回目	音階の歴史 ・音階の定義
【後期】 5回目	音階の歴史 ・音階の種類:ピタゴラス音階、純正 調音階、中間音整律、12平均律音 階の作成方法と特徴
【後期】 6回目	割り振り ・12平均律の作成:4度と5度の唸り の目安など
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態 度、レポート提出状況・内容、出席 率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	本講義は調律実習を行うためのもの です。実習で行わない古来使用して いた調律方法や音階の歴史について も紹介します。 ※本講義で扱う内容はピアノ調律 技能検定に出題されます。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	整調理論(アップライト)I	授業形態/必・選	講義	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	15回(30単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ピアノ調律コース、ピアノ/管楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	/			
授業概要				
部品の構造や働き、それらがタッチに与える影響や部品同士の関連を理解しながら、アップライトピアノの調整方法を学ぶ。				
到達目標				
各工程の手順を覚え、一通りの整調作業ができるようになる。				

授業計画・内容	
【後期】 1回目	整調の定義、整調について 工具の使用方法、作業方法は実演と合わせて説明
【後期】 2～3回目	アップライトピアノの整調、全24工程について 第1工程:ネジ締め 第2工程:鍵盤調整 第3工程:センターレール直線調べ 第4工程:打弦距離
【後期】 4～5回目	アップライトピアノの整調、全24工程について 第5工程:ハンマー間隔、弦合わせ 第6工程:ウイペン間隔直し 第7工程:から直し
【後期】 6～7回目	アップライトピアノの整調、全24工程について 第8工程:キャプスタンボタン調整 第9工程:鍵盤ならし 第10工程:鍵盤間隔直し
【後期】 8～9回目	アップライトピアノの整調、全24工程について 第11工程:キャプスタンボタン再度調整 第12工程:バックチェック調整 第13工程:ブライドルワイヤー左右調整
【後期】 10～11回目	アップライトピアノの整調、全24工程について 第14工程:鍵盤あがき 第15工程:ハンマー接近 第16工程:働き調整 第17工程:ハンマーストップ
【後期】 12～13回目	アップライトピアノの整調、全24工程について 第18工程:ジャックストップレール調整 第19工程:ダンパー総上げ 第20工程:スプーン掛け
【後期】 14～15回目	アップライトピアノの整調、全24工程について 第21工程:ダンパーストップレール調整 第22工程:ペダル調整 第23工程:ブライドルワイヤー前後調整 第24工程:全検査
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	講義は工程ごとに分割して行い、その都度アクションモデルを使用した作業も行います。また海外メーカーは基準寸法が異なるものもあるので説明します。 ※本講義で扱う内容はピアノ調律技能検定に出題されます。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ修理理論 I	授業形態 / 必・選	講義	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(16単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	ピアノ調律コース、ピアノ/管楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目	該当	<input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	/			
授業概要				
調律師の仕事の中でも、よく行われる修理について学ぶ。				
到達目標				
アップライトピアノの各部品で起こる故障に対応する修理の知識の修得。				

授業計画・内容	
【前期】 1回目	センターピン交換について
【前期】 2回目	フレンジブッシングクロス交換について
【前期】 3～4回目	張弦について
【前期】 5～6回目	鍵盤ブッシングクロス交換
【前期】 7回目	ブライドルテープ交換
【前期】 8回目	バットスプリングコード交換
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	本講義は実習「修理実技 I」を行うためのものです。修理方法を習得するだけでなく、各部品の特徴を理解し、正しい動作状態を覚えることも大切です。 ※本講義で扱う内容はピアノ調律技能検定に出題されます。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ構造理論 I	授業形態 / 必・選	講義	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	10回(20単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	ピアノ調律コース、ピアノ／管楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	/			
授業概要				
ピアノに使用される木材・金属・繊維などの素材の特徴を学ぶ。				
到達目標				
部品の形状・製造方法・必要な条件などの知識の修得。				

授業計画・内容	
【前期】 1回目	ピアノに使用される主な材料について ・木材
【前期】 2回目	ピアノに使用される主な材料について ・金属
【前期】 3回目	ピアノに使用される主な材料について ・繊維
【前期】 4回目	各部品について ・フレンジブッシングクロス、フレンジ、センターピン
【後期】 1回目	各部品について ・響板、響棒、フレーム
【後期】 2回目	各部品について ・弦、ピン板、ピンブッシュ、チューニングピン
【後期】 3回目	各部品について ・ペダル、鍵盤
【後期】 4回目	各部品について ・駒、支柱、打ち廻し
【後期】 5～6回目	各部品と構造について
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ピアノに使用されている部品の材質や製造方法を理解する事により、より良い実習を行うことができるため、各部品の特徴を覚えることが大切です。 ※本講義で扱う内容はピアノ調律技能検定に出題されます。
使用教科書	講義ごとにテキストを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ史	授業形態 / 必・選	講義	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(16単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	ピアノ調律コース、ピアノ／管楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	/			
授業概要				
ピアノの歴史と作曲家を照らし合わせながら、ピアノがどのように変化し、普及していったか、それぞれの部品ができた年代や、機構の違いなどについても学ぶ。				
到達目標				
ピアノの歴史に対する知識の習得。ピアノ調律技能検定筆記試験に出題されるため、合格を目標とする。				

授業計画・内容	
【前期】 1回目	ピアノという楽器
【前期】 2回目	チェンバロ
【前期】 3回目	クラヴィコード
【前期】 4回目	ピアノの誕生
【前期】 5回目	音域の拡充
【前期】 6回目	ピアノの型
【前期】 7回目	鉄骨と張力
【前期】 8回目	ペダルとメカニズム
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ピアノの誕生から発達していく過程を学びます。ピアノの歴史だけではなく世界三大メーカー(スタインウェイ・アンド・サンズ、ベーゼンドルファー、ベヒシュタイン)についても解説を行います。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	音楽概論 I	授業形態 / 必・選	講義	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	18回(36単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ピアノ調律コース、ピアノ/管楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>			
担当講師 実務経歴	実務経験 42年 自宅にて個人ピアノ教室を開業し、企業音楽教室で講師も務めた。			
授業概要				
音程や音階の知識を中心に、調律理論 I と並行した内容を学ぶ。				
到達目標				
調律のスピードや精度の向上。				

授業計画・内容	
【後期】 1～2回目	音名について
【後期】 3～4回目	調号について
【後期】 5～6回目	長調について
【後期】 7～8回目	音階について
【後期】 9～10回目	反復記号について
【後期】 11～12回目	音程について
【後期】 13～14回目	短調について
【後期】 15～16回目	関係調について
【後期】 17～18回目	和音 主要三和音について
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	調律実技やピアノ演奏など、その他実習にも紐づく講義ですが、授業はその関連性や意味合いを必要毎伝えながら進めていきます。 ※本講義で扱う内容はピアノ調律技能検定に出題されます。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器基礎知識-B	授業形態 / 必・選	講義	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(16単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	ピアノ/管楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	/			
授業概要				
管楽器に関する基礎的な知識を学ぶ。				
到達目標				
管楽器の修理、販売で必要となる管楽器知識の基礎となる項目について理解する。				

授業計画・内容	
【前期】 1回目	音程を変化させる仕組み: 自然倍音列、開管振動、閉管振動、有効管長の理解
【前期】 2回目	管楽器の構造: 構造の概念、ボア形状、キムカニズム、バルブ、各種パーツなどの理
【前期】 3回目	管楽器の取り扱い方法
【前期】 4回目	木管楽器の取り扱い方法
【前期】 5~6回目	金管楽器の取り扱い方法
【前期】 7回目	金属素材: 楽器に使われる金属素材の理解 木材・天然素材: 楽器に使われる木材、天然素材の理解
【前期】 8回目	樹脂素材: 楽器に使われる樹脂素材の理解 接着剤: 楽器製造、修理に使われる接着剤の理解
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	楽器リペア、販売、製造における基本知識となる。楽器をイメージすること、他楽器での応用までを考えて取り組むことが大切。楽器店やWeb、書籍や博物館など身の回りにある楽器に触れる、知識を得る機会を逃さずキャッチする取り組みも推奨する。
使用教科書	「カラー図鑑 楽器の歴史」河出書房新社、講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器修理概論 I	授業形態 / 必・選	講義	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	16回(32単位時間)	年間単位数
科目設置学科コース	ピアノ/管楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	/			
授業概要				
フルート・クラリネット・サクソ・トランペット・トロンボーン・ホルンを主な題材に、楽器ごと、修理内容ごとに点検法・メンテナンス法・修理手順・重点ポイント・応用法を講師による実演や、VTRを使用しての解説を行う。				
到達目標				
楽器ごとの修理方法を学ぶ中で、その構造と対処法を理解し、どんな状況でも修理対応ができる基礎力の修得。				

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	フルート/クラリネット 取扱い、分解組立、掃除、オイルアップ
【前期】 3～4回目	フルート/クラリネット タンポ調整
【前期】 5～8回目	トランペット/トロンボーン/ホルン 掃除、オイルアップ、スライド調整、ロータリー調整、ピストン調整、抜差管調整
【前期】 9～10回目	キョコルク交換、クラリネットジョイントコルク交換
【後期】 1回目	サクソ 取扱い、分解組立、掃除、オイルアップ
【後期】 2～4回目	木管楽器連動調整 フルート/クラリネット連動調整
【後期】 5～6回目	サクソ タンポ調整
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	常にその楽器をイメージすることと、他楽器での応用までを考えて取り組むこと。修理が必要な楽器の状態はさまざま、短時間で判断して作業工程を組み立てる必要があるため、管楽器リペア実習とともに繰り返し考察することが大切である。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器商品知識 I	授業形態 / 必・選	講義	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	15回(30単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース、管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	/			
授業概要				
フルート・クラリネット・サクソ・トランペット・アクセサリーの楽器・製品解説。				
到達目標				
楽器の特徴・メカニズム・システムから、メーカーごとの特徴や売りなど、販売・修理知識の修得。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	フルート概要・製品解説
【前期】 4～6回目	クラリネット概要・製品解説
【後期】 1～4回目	サクソ概要・製品解説
【後期】 5～7回目	トランペット概要・製品解説
【後期】 8回目	マウスピース概要・製品解説
【後期】 9回目	リード概要・製品解説 リガチャー概要・製品解説
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	異なる楽器でもその特徴などは類似する点が多いので、常に関連付けて考えられるように取り組むこと。講義だけでは活きた情報にはならないので、自ら楽器店などでその製品の特長などを観察・試奏することも重要になる。
使用教科書	「管楽器価格一覧表」ミュージックトレード社、「カラー図鑑 楽器の歴史」河出書房新社、各メーカーカタログ、資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	調律実技(アップライト) I - B	授業形態 / 必・選	実習	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	123回(246単位時間)	年間単位数 8単位
科目設置学科コース	ピアノ/管楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>			
担当講師 実務経歴	実務経験 23年 中古ピアノ店に15年務め、中古ピアノの調律、整調、修理、運送などに携わり、現在は委託の調律師として活動中。			
授業概要				
実際にピアノを使用して調律する。				
到達目標				
ひとつの鍵盤に張られている最高3本の弦を、ひとつの音にまとめるユニゾン調律の技術を最初に修得し、その後、オクターブ調律・平均律音階を修得し、最終的には1台のピアノを2時間弱で調律する。				

授業計画・内容	
【前期】 1回目	調律の姿勢、工具の使用方法
【前期】 2回目	外装の取り外し方法
【前期】 3～30回目	中音・高音・低音ユニゾン調律
【前期】 31～61回目	中音・高音・低音オクターブ調律
【後期】 1～20回目	ピッチ採り・割り振り
【後期】 21～25回目	28C～64C ピッチ採り、割り振り、オクターブ調律、ユニゾン調律
【後期】 26～40回目	16C～88C ピッチ採り、割り振り、オクターブ調律、ユニゾン調律
【後期】 41～62回目	一台調律
備考	※測定器(YAMAHA PT)を使って測定。調律グラフに沿った調律ができているか確認。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	個人ブースでの実習になるため個々の進行状況に合わせて範囲を広げる(進行を進める)こともあります。調律の完成度はもちろん、ハンマー操作、打鍵、姿勢についても毎時間確認を行い、各自の体に合った姿勢を習得することもとても大切です。
使用教科書	「調律理論 I」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	整調実技(アップライト) I - B	授業形態 / 必・選	実習	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年次	1年次	
	年間授業数	63回(126単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	ピアノ/管楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>			
担当講師 実務経歴	実務経験 29年 楽器店に15年間ほど勤め、その後ピアノ調律事務所を独立開業し、現在に至る。			
授業概要				
調整理論 I での24工程を繰り返し実際に行う。				
到達目標				
鍵盤を押してから音が鳴るまでの各パーツの動きを理解し、それらひとつひとつを調整して弾き心地を揃える技術の修得。				

授業計画・内容	
【後期】 1～16回目	整調の24工程の講義を受けながら、アクションモデルを使用し作業の手順や工具の使い方を覚える。 1. ネジ締め 2. 鍵盤調整 3. センターレール直線調べ 4. 打弦距離 5. ハンマー間隔・弦合わせ 6. ウイペン間隔直し 7. から直し 8. キャプスタンボタン調整 9. 鍵盤ならし 10. 鍵盤間隔直し 11. キャプスタンボタン再度調整 12. バックチェック調整 13. ブライドルワイヤー左右調整 14. 鍵盤あがき 15. ハンマー接近 16. 働き調整 17. ハンマーストップ 18. ジャックストップレール調整 19. ダンパー総上げ 20. スプーン掛け 21. ダンパーストップレール調整 22. ペダル調整 23. ブライドルワイヤー前後調整 24. 全検査。
【後期】 17～32回目	24工程2回目。割り振られたセクション(低音・中音・高音)作業。
【後期】 33～48回目	24工程3回目。2回目に割り振られた以外のセクション(低音・中音・高音)作業。
【後期】 49～63回目	24工程4回目。2.3回目に割り振られた以外のセクション(低音・中音・高音)作業。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	期限を設けて計画的に実習を行う。各工程の作業が完了するごとに講師が確認を行い、次の工程へ進みます。ピアノの状態によっては「修理実技 I」で習得した作業を行うこともあるため、各修理の復習も伴います。
使用教科書	「整調理論(アップライト) I」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ修理実技Ⅰ-B	授業形態/必・選	実習	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	45回(90単位時間)	年間単位数 3単位
科目設置学科コース	ピアノ/管楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>			
担当講師 実務経歴	実務経験 35年 楽器店勤務後、音楽教室の調律師として勤める。その後嘱託兼フリーランスの調律師として活動中。			
授業概要				
「ピアノ修理理論Ⅰ」で学んだ知識をもとに実習(反復練習)を行う。				
到達目標				
よく起こる故障に対し、原因を見定めて正しい処置を行う技術の修得。				

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	鍵盤ブッシングクロス交換
【前期】 6～10回目	フレンジブッシングクロス交換
【前期】 11～25回目	張弦
【前期】 26～35回目	センターピン交換
【前期】 36～40回目	ブライドルテープ交換
【前期】 41～45回目	バットスプリングコード交換
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	各修理、目標時間を設定して計画的に作業を進めます。講義「修理理論Ⅰ」で学んだ作業方法に則って、テキストを見ながら反復練習を行います。提出が必要な修理に関してはテキストを見ずに作業が出来ているかも評価します。
使用教科書	「ピアノ修理理論Ⅰ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ演奏 I	授業形態 / 必・選	実習	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	18回(36単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	ピアノ調律コース、ピアノ/管楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 <input checked="" type="checkbox"/>			
担当講師 実務経歴	実務経験 25年 楽器店のピアノリミック講師及び出張個人レッスン、グループレッスンも行う。			
授業概要				
調律時に必要な音階を演奏する。				
到達目標				
調律の確認を行うための演奏技術の修得。				

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	指使い
【前期】 3～5回目	半音階(完全8)
【前期】 6～7回目	半音階(長3度、短3度)
【前期】 8～9回目	1オクターブ長調音階
【後期】 1～2回目	半音階(長6度、短6度)
【後期】 3～4回目	半音階(完全4度、完全5度)
【後期】 5～6回目	1オクターブ短調音階
【後期】 7～8回目	2オクターブ長調音階
【後期】 9回目	2オクターブ短調音階
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	お客様の要望で調律後に演奏を行う場合もあります。仕事に対する満足度を高めてもらうためにも、最低限の演奏技術は身につけておくべきです。
使用教科書	別紙譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器修理基礎	授業形態 / 必・選	実習	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	56回(112単位時間)	年間単位数 3単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	/			
授業概要				
基礎的な作業の反復練習が中心。指定課題を指定期限内に提出することで、現場での納期と作業計画をシミュレーションさせる。				
到達目標				
フルート・クラリネット・サクソ・トランペット・トロンボーン・ホルンの修理方法の修得。				

授業計画・内容	
【前期】 1～27回目	木管楽器リペア フルート 分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整・バランス調整 (15回)
【後期】 1～29回目	木管楽器リペア クラリネット 分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整・キョルク交換・バランス調整・ジョイントコルク交換 (16回)
	木管楽器リペア サックス 分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整 (11回)
	金管楽器リペア トランペット 掃除・オイルアップ・拔差管調整 (8回)
	金管楽器リペア トロンボーン スライド掃除・オイルアップ・停止帯フェルト交換 (3回)
	金管楽器リペア ホルン ロータリー分解組立・掃除・オイルアップ・紐交換 (3回)
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。単に課題を終わらせるのではなく、実際の業務をイメージしてより正確に、早く作業を進めることをめざし、自ら進んで考えることで応用力を養うことは大切である。
使用教科書	「管楽器修理概論Ⅰ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ業界演習 I	授業形態 / 必・選	演習	必修
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(32単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ピアノ調律コース、ピアノ管楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	/			
授業概要				
楽器業界の企業による製品・技術セミナーや学園祭での接客演習、リクルートセミナー				
到達目標				
楽器の専門知識の実践と、実際の応用方法を理解する				

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	楽器業界の企業による製品・技術セミナー①②
【前期】 3回目	就職講座とマナー実技
【後期】 1～2回目	学園祭: 準備日①②
【後期】 3～4回目	学園祭: 出店での接客実演とリペア実演①②
【後期】 5回目	学園祭: 片付け、原状回復
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	実際に仕事を体験することで、進路に対する興味を持ち積極的な行動ができるよう努めること。
使用教科書	適宜資料配布